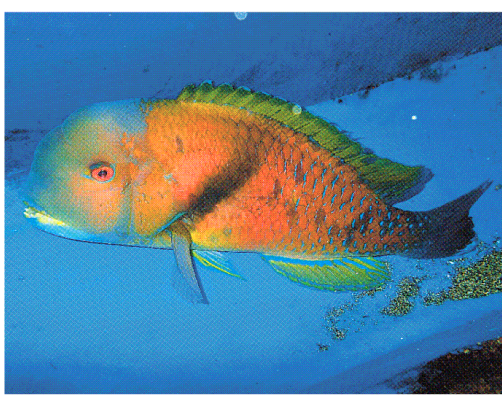
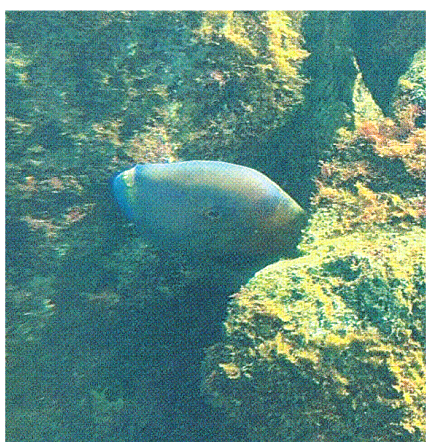




岩穴に隠れて眠るイラ 額の部分の張り出しが目立つ雄のイラ



おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から

イラは、釣り人にとつて磯からイシダイを狙っている時に釣れる魚として知られています。犬のようにとがった歯があり、かまれないよう注意が必要です。福岡県の

地方名は「ハト」。九州の釣り人からは親しみをこめて「ハトポツポ」と呼ばれることもあります。沿岸のやや深い岩場や、砂や小石がある海底に生息し、

砂の中や岩穴に隠れて眠る習性があります。雌から雄へ性転換する魚で、大型の雄は額の部分が張り出しているため、見分けることができます。幼いうちは背びれに目のような模様がありますが、成長するにつれて消えます。大人になると、体の側面に斜めに走った黒く幅の広い帯と興味をそそられます。のんびり泳いでいる時は愛くるしい表情ですが、餌を食べる時は一転して、鋭い歯をむきだしにして怖い顔に見えます。

左右の目動き表情豊か

イラ

学名 *Choerodon azurio*

- 分類** スズキ目ベラ科
- 大きさ** 全長約45センチ
- 分布** 南日本、台湾、朝鮮半島、東シナ海、南シナ海など
- 食性** 貝類やゴカイ類等の底生生物や付着生物を食べる肉食性
- 特徴** 捕まるとかみつくので「短気な魚」、すなわち「イライラ」していることから命名されたという説がある。地域によっていろいろな名前と呼ばれており、その中にテンスやアマダイ、ブダイ、カンダイがあるが、それぞれの名前を和名に持つ別の魚がいる。姿や形などが似ているためこれらの魚と混同されていることが分る。

かごしま水族館の4階の水槽でイラを展示していますので、じっくりと観察してみてください。きっと豊かな表情や興味深い行動を見せてくれると思います。

(展示課主幹・久保信隆)